第３学年音楽科学習指導案

日　時　平成１５年１０月１日（水）５校時
場　所　宮古市立津軽石中学校　音楽室
生　徒　同校　３年Ａ組
（男子１７名　女子１２名　計２９名）
指導者　同校　教諭　時　枝　和　香

１　題材名　「合唱の喜び」
（教材名）　（『さくら』『聞こえる』）

２　題材について
（１）題材・教材について
表現の領域である歌唱、器楽、創作の各活動については年間計画に基づき指導しているが、その中でも自ら表現する喜び、お互いの気持ちを大切にしながらみんなでひとつの音楽をつくり上げる喜びを味わうことができるのが合唱と考える。その喜びを味わわせるために、文化祭に行われている校内合唱コンクールと関わらせながらこの時期に本格的な混声合唱に取り組ませようと本題材を設定した。この題材においては、学習指導要領第３学年表現の内容（１）ア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること」が深く関わっている。「味わ」うということは、歌詞の内容や曲想を感覚的、直感的にとらえる段階から進んで、自分がなぜこういうイメージや感情をもったのかという根拠を、歌詞や曲の仕組みの中にさがすことによって曲特有の味わいをつかむことである。そして、それを表現に生かすために必要な技能を得る学習として（１）イ「曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌うこと」エ「声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱や合奏をすること」にも関わりをもってくる。また、ク「速度や強弱の働きによる曲想の変化を理解して表現を工夫すること」の学習も曲想を工夫する段階において必要不可欠となる。
本教材の「聞こえる」は混声３部合唱ではあるが部分４部合唱になっている。ユニゾンから始まり、２声に分かれメロディがパートに受け継がれていき、変奏曲風に発展していく。再現部では広がりを表現できるなど合唱の醍醐味を味わえる曲である。また、テンポや強弱の変化など音楽の諸要素が盛り込まれており、時間をかけて表現を工夫することのできる曲である。特に歌詞にはこの曲がつくられた時代を背景とした作詞者の願いが込められており、その内容についても深く考えることができる。このような点で中学校最終学年で取り組む合唱として適していると考える。
（２）生徒の実態
本学級は、男女のパート人数が偏っているため、これまで女子を１パートとした２部合唱を中心に歌ってきた。合唱に対してはまじめに取り組む生徒が多く、範唱や歌詞から感じた曲へのイメージでも深く考え曲を理解しようとする生徒が多かった。しかし、持っているイメージを表現することに対しては抵抗感のある生徒が多い。このため、今までの合唱の授業においては声を出して歌うことに抵抗を持たないようにするために「思いきって声を出す」ということに重点を置いて指導してきた。したがって、発声や発音等の技術的なことや、歌詞の意味について考えて曲の表現を考えることを具体的に取り上げて指導するのはこの題材が初めてである。男子はテナーの生徒が多く、この曲の音域は無理なく出すことができると思われる。女子は声の支えが弱く、高音になると音程が不安定になりがちであるが、パート練習時に発声練習に積極的に取り組むなど、響きのある声で歌いたいという願いを持っている。
（３）指導の構想
まず、範唱と歌詞を手がかりに歌のイメージをとらえさせたい。次に初めの部分Ａ、Ｂで歌詞の内容や曲の構成などについて詳しく学習する。そしてそれを表現する方法として発声や発音など表現の技能について教師主導で指導する。その他の段落についてはＡ・Ｂの部分で学習したことを生かして曲をつくっていく。曲の完成にあたっては歌詞の内容からイメージするほかに、旋律の流れや作曲者が意図してつけた強弱記号、速度記号なども手がかりにさせたい。生徒に考えさせることと教師が教えることを明確にして短時間ではあるが納得のいく取り組みをさせたい。また、本題材での学習で学んだことを手がかりにして、曲に対して深く追求する姿勢をもち、自分達で表現について考えていこうとする態度を育てたい。そこから合唱の喜びを味わい、合唱活動に取り組んでいこうという意欲につながることを目指している。また、それだけにとどまらず、これからの生活の中で音楽に親しんでいくひとつのきっかけとなることを期待している。

3　題材の目標

・曲に対して自己のイメージや感情を持ち、意欲的に表現しようとする。　（関心・意欲・態度）

・歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫することができる。

（音楽的な感受と表現の工夫）

・歌詞の内容や曲想を理解し、曲にふさわしい表現で合唱することができる。（表現の技能）

4．題材の評価規準

ア　歌詞の内容や曲想を理解し、自分のイメージや感情を持って合唱することに意欲的である。

【関心・意欲・態度】

イ　自分のイメージの根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見つけることに意欲的である。【関心・意欲・態度】

ウ　自分が持ったイメージの根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見つけている。【音楽的な感受や表現の工夫】

エ　曲のよさや特質を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫している。【音楽的な感受や表現の工夫】

オ　ことばの抑揚、アクセント、リズム、語感、濁音、半濁音などの美しさを感じ取っている。

【音楽的な感受や表現の工夫】

カ　ことばの抑揚、アクセント、リズム、語感、濁音、半濁音などの美しい歌唱表現をする技能を身に付けている。【表現の技能】

キ　音と音とのかかわり合い、形式などの働きを理解して自分の旋律を歌うことができる。

【表現の技能】

ク　声部の役割、曲の仕組みを生かして自分の声部を歌うことができる。【表現の技能】

ケ　演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和を感じ取りながら合唱することができる。【表現の技能】

5　指導計画（本時８／１２）

第１次（１時間）『さくら』の原曲を聴いて、曲に対するイメージをつかませる。（評価規準　ア）

第２次（２時間）『さくら』の各声部の旋律を聴いて、自分の声部を正しく歌うようにする。（規準 キ）

第３次（１時間）『聞こえる』の範唱と歌詞から、曲に対するイメージをつかませる。（規準 ア,イ）

第４次（３時間）『聞こえる』の自分の声部の旋律を正しく歌うようにする。（規準 キ,ク）

第５次（４時間）『聞こえる』の歌詞の意味を理解し、曲想を考えて合唱するようにする。

（規準　ウ,エ,オ,カ,キ,ク）

第６次（１時間）　生徒指揮者、伴奏者とともに『さくら』『聞こえる』をつくり上げる。

（規準カ,キ,ク,ケ）

6　本時の指導

（1）本時の目標

歌詞の意味や旋律の流れを理解して、自分のイメージを持って$\boxed{A}$を表現することができる。

（2）本時の評価

評価規準Ｂ（観点）	評価場面（方法）	Ａの具体的状況例	Ｃへの手だて（支援）
・平和や自由を願っている歌詞であることを理解し、その場面をイメージして表現を考えることができる。 ・旋律の山場を強弱記号を手がかりに考えることができる。（音楽的な感受や表現の工夫）	・課題の追求(1) 歌詞や旋律の山場について考える場面（生徒の記述・発表）	・歌詞のどこから平和への願いが感じられるかを指摘することができる。場面を具体的にイメージし言葉で表現することができる。 ・旋律の山場を強弱記号だけでなく歌詞や旋律の流れから感じることができる。	・「優しい感じ」とか「静かな感じ」等という漠然としたイメージを抱いている生徒には具体的な言葉を提示してそれが何を意味しているかを考えさせる。 ・旋律の山場がわからない生徒には、強弱記号の意味を確認しながらどこが強くなっているかを考えさせる。
・ことばを明確に発音し、強弱などの表情をつけて歌うことができる。（表現の技能）	・課題の追求(3) 旋律の山場を意識して合唱する場面（教師の観察）	・旋律の流れを感じながら山場を意識して歌っている。表情、態度にもそれが表れている。	・指揮に注目させ、指揮の指示によって発音のタイミングや表現の付け方などを支援する。

（3）展　開

	学習内容・＊生徒の反応等	・指導上の留意点、◇評価、◆支援　※資料等
導入 10分	1、既習曲の歌唱 ○「さくら」を合唱する。 ・旋律がどのパートにあるか意識して歌う。 ・歌詞を明瞭に歌い、他の声部との重なりを意識して歌う。 2、学習課題の把握 （1）「聞こえる」を合唱する。 （2）課題を把握する。	・歌う前に姿勢の確認をし、意識させる。 ・主旋律の声部に分かれる部分では言葉をかけ意識させる。 ・音は不安定な所は教師が一緒に歌う。 ・最初の合唱では音を正しく歌うことを意識させる。 ・前回の個人反省をもとに合唱リーダーで話し合った課題を提示する。
	曲に込められた意味を理解し、それが聴いている人に伝わるように感情を込めて歌おう。	
展開	3、課題の追求 （1）Aの部分の表現を工夫する ○歌詞に込められている意味を考える。 ＊平和を願う人々の様子を表している。 ＊「鐘」「鳩」は平和の象徴だろう。 ＊いままで虐げられてきた人々が自由を喜んでいる。 ○旋律の流れを確認し、旋律の山がどこにあるか理由を含め考える ・この部分がユニゾンになっているのはなぜだろう。 ＊心に訴えるように静かに始まりたいから ＊言葉をはっきりと伝えたいから ＊みんなで同じ気持ちで歌ってほしいから ・出だしはどんなふうに歌ったらよいだろうか。 ・一番強く歌うところはどこだろう。 ＊歌詞の内容から願っているのは『歌』だから「歌を歌をください」の部分だろう。 ＊「ひろばをうめた」からだんだん音が高くなって、「聞こえる歌を」の部分の音が一番高くなっている。 ＊「聞こえる」からクレッシェンドして「歌を」でフォルテになっている。	・最初にかいた曲のイメージについて発表させた上で、この歌が作られた年代とその時の世界情勢を踏まえ考えさせる。　※年表 ・歌詞をかいた模造紙を準備し、ポイントをまとめて提示する。　※歌詞の模造紙 ・歌詞を表現するために曲がどのように作られているかを考えさせる。 ・まずA の部分がユニゾンであることの意味について考えさせ、出だしの歌い方を工夫させる。 ・実際に歌い、考えたことを自分なりに表現させる。 ・旋律の山がどこにあるか歌詞の内容や旋律の流れ、強弱記号などから考えさせる。 ・聞こえるからクレッシェンドしていき１回目の「歌を」に思いが込められることを確認する。また、２回目の「歌を」についてもその表現を考えさせる ・実際に歌って旋律の流れを感じさせる。 ◇評価１ ・平和や自由を願っている歌詞であることを理解し、その場面をイメージして表現の方法を考えることができる。 ・強弱記号などを手がかりに旋律の山場を考えることができる。　【音楽的な感受や表現の工夫】 ◆漠然としたイメージしか抱けない生徒には具体的な言葉を提示してそれが何を意味しているかを考えさせる。

展開 35分		◆旋律の山場がわからない生徒には、強弱記号の意味を確認しながらどこが強くなっているかを考えさせる。
	（2）表現方法の練習をする ○ポイントとなることば「鐘：KANE」「鳩：HATO」「群衆：GUNSYUU」「聞こえる：KIKOERU」「歌：UTA」を聞き手に訴えるように表現する。 ・それぞれの言葉の子音と母音について確認する。 ・子音の発音について全体で練習する。 ・母音の発音についてパートごとに口形を確認しながら練習する。 ・ペアでお互いの口形を確認したり、鏡を使って自分の口形を確認したりする。	・ことばに込められた意味を表現するには、ことばを正しく伝えなければならないことから、発音や発声の技術を習得する必要性を感じさせたい。 ・ことばを大切に表現するための技術的なことについては教師が教える。 ・ことばは母音と子音からできており、歌詞をはっきり伝えるには子音を前に出して発音すること、また、母音の発音のためには正しい口形が必要であることを意識させる。　※鏡
	○場面をイメージしながら、旋律の山場を意識して合唱する。 ・フレーズを確認する。 ・言葉を伝えるつもりで表現する。 ・強弱を単に音の大小としてではなく内面からくる強弱としても感じて表現する。	＊一つ一つの言葉をはっきり歌うことを意識させるがそれによってフレーズがとぎれることのないよう、自然な旋律の流れから曲の山場を感覚的にとらえることを大切にしたい。 ◇評価２ ・ことばを明確に発音し、強弱などの表情をつけて歌っている。【表現の技能】 ◆自分自身で表現できない生徒には、指揮に注目させ指揮の指示によって発音のタイミングや表現の場面を支援する。
	（3）最後のハミングに込められた意味を考え表現を工夫する。 ・テヌート、スタッカートの意味を確認し、「Hum」の表現を考える。 ＊あまり弾むように歌う部分ではない ＊心の中に語りかけるように歌う	・それぞれの段落に移る部分では、「Hum」「ルルル」「ラララ」等が使われていてそれぞれが曲を表現することに大切な役割を果たしている。この「Hum」の場合はどんな気持ちを込めて、歌ったらよいか、記号を手がかりに実際に歌いながら考えていきたい。
終末 5分	4、本時のまとめ （1）学習したことをもとに、Aの部分を歌う。	・指揮者、合唱リーダーは歌わずに聴き、感想を発表する。 ・細かい部分を意識するのではなく、自分のイメージを持ち、指揮に注目して旋律の流れを感じるように歌わせたい。
	（2）今日の学習の成果、次時の課題をまとめる。 ・練習の記録に記入し、発表する。	・各パートリーダーに発表させる。
	5、次回の確認	・この曲には様々な要素が取り入れられており、全てを完璧に表現することは困難なことであるが、今日学習したことを手がかりに、これからみんなで曲をつくり上げていくことを伝え、次回からの意欲につなげる。

（4）板書計画

曲に込められた意味を理解し、それが聴いている人に伝わるように感情を込めて歌おう。

歌詞の意味　曲の構成　表現の仕方

ユニゾン
同じ旋律をいっしょに歌う →

鐘：KANE

鳩：HATO

群衆：GUNSYUU

聞こえる：KIKOERU

歌：UTA

A

鐘が鳴る　鳩が飛び立つ

広場をうめた　群衆の叫びが

聞こえる　歌を　歌をください

Hum　Hum　Hum

＊年表

テヌート
スタッカート